

会員交流バスツアー 「中央防波堤埋立処分場」施設見学

5月22日(火)に会員就業・交流検討委員会主催(理事会共催)の平成30年度第1回目の会員研修として「中央防波堤埋立処分場(正式名称:東京都廃棄物埋立処分場)」見学のバスツアーが開催されました。ここは23区の粗大ごみ・不燃ごみ全部が集まる最終処分場です。

朝9時に旧甲州街道、大國魂神社交番前に渋谷会長を含め、45名の会員が集合・出発しました。10時30分には、江東区青海の現地に到着、東京都廃棄物埋立管理事務所の広報の方の説明・案内によりバスの車内(安全上の規則)から施設を見学しました。最初の施設は、不燃ごみを破碎する施設で、巨大なパワーショベルやベルトコンベアに膨大な量の破碎後のごみが処理されていく様子は、とても豪快な工場という印象でした。

多い順に①布団②タンス類の家具③椅子で、目立って増えているごみは「畳」であり、住宅事情が反映されているとのことでした。また仕分けした鉄とアルミは、年間約3億円になるとの事でした。

次に破碎されたごみの最終処分場の埋め立て地を見学。ここは、東京湾に広大な防波堤を築き、その内側にごみ、土、ごみ、更に土とサンドイッチ状態にして積み上げてできあがり

ます。処分場の中央部の標高は30メートルの高さで、その場所に立つてみると、東京湾が一望でき、羽田空港がすぐそばに見えました。現在稼働中の処分場は、内側、外側、新海面の三つの処分場で、東京ドームに換算して27個分ありますが、今のままの推移では、約50年で満杯になるとの事です。

広報の方の興味深かった説明は、多摩地域は中都市の分類で、府中市は全国でも5番目にごみの少ない市であること、特に日の出町の処分場ではエコセメントを作るなどして、処分場の耐用年数を15年から30年にすることが出来た事について、お褒めの言葉がありました。全行程約2時間の見学でした。

さて、埋立処分場見学のあとは昼食の楽しみが待っています。今回は築地場外にある、毎年「マグロを最高額で競り落とす」ことで知られる寿司店で、本場の味に舌鼓を打ち、それぞれお土産を手に帰路に着きました。今回の見学では、会員就業・交流検討委員会メンバーの方々のお世話のおかげで、安全で無事な行程であったことを感謝しました。



働く会員の職場訪問 学習教室・英会話教室

5月24日(木)学習教室事業職群を紹介するため、就業先のふれあい会館相談室にて、学習前に教師会会長の中山明さんからお話をうかがいました。永年、学習教室職群の事を「教師会」と呼んでいるそうです。

現在学習教室は「小4〜中3対象の教室」と「大人対象初級英会話教室」の2種類の教室があります。また「小4〜中3対象の教室」は学年ごとに6つの教室に分かれています。それぞれ週に1回または2回、小学生は17:30〜19:00、中学生は19:20〜20:50で1時間半の学習です。

英会話教室は昨年8月に「当センター設立40周年記念無料事業」の一環として実施した初級英会話教室が好評だったため、今年4月から立上げました。木曜日1時間半のレッスンです。

小学生対象の教室では国語と算数、中学生対象の教室では数学と英語を、補助を含め約10名の先生でおおよそ24名の生徒を教えています。

講師資格としては教員資格保有者などに限定していた頃もありま

したが、現在は実力のある方を重点選考して登用しているそうです。特に英会話では、海外駐在経験や外資系勤務経験などの実践経験を講義に活かしています。

府中の公立小中学校は同じ教科書を使用しているのですが、進め方は「原則として教科書に従って行っている」そうです。

苦労するのは、学校によって教科書進度に差があることで、個人の能力に差があることで、それらを見極めて学習を進めなければならない点です。

この仕事をしていて良かったと思うときは「志望校や英検などに合格した生徒からお礼を言われたときや『苦手だった科目に興味を持ち出した』と言われたときです」と、にこやかに話してくださいました。

